

令和3年度 赤穂市立赤穂小学校 学校評価報告書

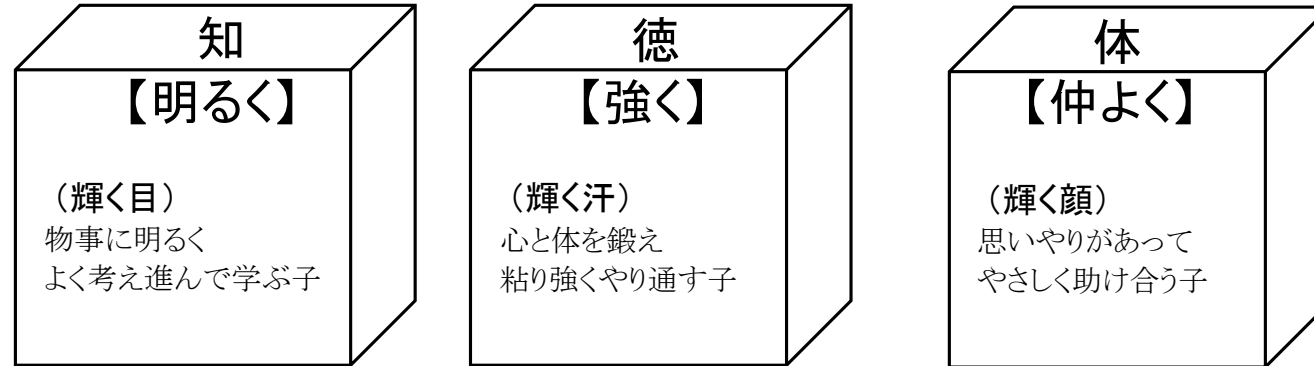
学校名 赤穂市立赤穂小学校

1 赤穂小学校の教育

(1) 教育目標

夢を大きく膨らませ、共に支え合う児童を育てる

(2) 校 訓



(3) 本年度の学校経営方針

<重点>

- 発達や学習の課題を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善に向けた取組を進めるとともに、指導と評価の一体化を進め、確かな学力の定着を図る。
- 児童一人一人の内面に対する共感的な理解を深め、学校行事等の集団活動を通して望ましい人間関係の形成、実践的態度の育成を図る。
- 児童が学習する基盤となる力を育むための体づくりを、授業や学校生活のあらゆる機会に設定し実践する。
- 重点目標
 - 1 児童のよさや可能性を伸ばし、自己有用感や自尊感情を高める指導の充実を図る。
 - 2 基礎・基本の確実な定着を図り、創造性や個性を伸ばす教育を推進する。
 - 3 夢や目標の実現に向けたキャリアプランニング能力の育成をめざす。
 - 4 人権尊重の精神を基盤に豊かな人間性の育成をめざす。
 - 5 社会の変化に対応した教育活動を展開し、指導者としての専門性と実践的指導力の向上をめざす。
 - 6 道徳教育・体験活動を充実し、他者を尊重し思いやる「豊かな心」を育む。
 - 7 児童の生活実態を把握し、授業や生活の中での体づくりや環境整備に取り組む。
 - 8 学校・家庭・地域社会との信頼関係を確立し、地域への愛着や誇りを育む。

(4) 本年度の学校重点目標

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| ①学習指導要領に基づいた教育課程の着実な実施 | ⑨「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進 |
| ②キャリア教育の充実 | ⑩心の通い合う生徒指導の充実 |
| ③特別支援教育の充実 | ⑪防災・安全教育の充実 |
| ④人権教育の徹底 | ⑫学校園所・家庭・地域との連携(コミュニティ・スクールの充実) |
| ⑤道徳教育の充実 | ⑬福祉教育・ボランティア活動の推進 |
| ⑥外国語教育・伝統文化に関する教育の推進 | ⑭健康教育・食育の充実 |
| ⑦読書活動の推進 | ⑮プログラミング教育の充実 |
| ⑧環境教育の推進 | ⑯教職員の専門性と実践的指導力の向上 |
| | ⑰学びの保障に向けた教育活動の創造 |

【総合的な学校関係者評価】

今年度(令和3年度)も、コロナ禍での学校運営を強いられることとなった。学習活動や体験活動等で様々な制限があった中ではあったが、学校運営をよりよくしようという教職員の知恵や工夫、また、保護者や地域との協力や連携を垣間見ることができた1年であった。

一つ目は、「通学路の改善」である。市や警察などと合同で行った「通学路安全点検」で発見された危険箇所について、通学路の変更や、電柱幕の設置など改善をすることができた。登下校の安全のために、学校が積極的に改善を図ろうとした動きに、地区長会や学校運営協議会、自治会などが有機的につながった結果、早期に対応することができた。

二つ目は、「授業の改善」である。令和2年から「人権教育の実践」について、2年間研究を行った。この研究の過程についてまとめた研究紀要を見せていただいたが、研究推進担当の先生を中心に学校全体で有意義な研究を行った「足跡」を見ることができた。特に、児童同士をつなぐ、「つながりタイム」の設定や、より効果的に児童同士をつなぐ「つながりのデザイン」の開発は、研究が終わった来年度以降も、様々な教科や場面で活用できるだろう。児童同士のつながりを通して「学校に来て良かった」「あの友達にあんなこと言ってもらってよかった」と1日1つでも家に持って帰ることができるよう、今後も継続して取組を続けていって欲しい。

最後に、「情報発信の改善」である。プリントを配付する従来の方法だけでなく、スケジュールや警報が出たときの対応など、いざというときに必要な情報をHPに掲載したり、アンケート等をwebアンケートにしたりすることで、より手軽に情報にアクセスすることができるようになっただけでなく、教職員の負担軽減に寄与することができている。また、HPに掲載している情報もわかりやすく編集されたものになっており、保護者に寄り添った対応ができており非常にありがたく思う。

来年度も、今年度同様コロナウイルスによる影響を受けるだろう。また、アフターコロナの学校運営も考えていかななくてはならない。しかし、今年度のように、様々な諸課題について、学校だけで抱えるのではなく、保護者や地域、また関係諸機関と連携を図りながら、校区全体で解決していけるような体制を来年度もとっていただきたいと思います。

2 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
(実践の柱)	評価指標及び目標値(期待される姿)				
①学習指導要領を踏まえた教育課程の着実な実施	項目	基礎基本の定着のための指導方法の工夫や、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善に努めているか。	教職員アンケート【3.95】	A	日常の授業研究や課題の分析にあたる「学力向上委員会」の開催等、豊かな学びに向けた取組は評価できるが、保護者や児童のアンケートを見ると、「授業がよくわからない。」と答えている保護者や児童も若干名いることも事実である。学習のつまづきに関する詳細の把握、学力の定着に向けた授業の新たな創造、家庭学習の効果と保護者との連携を視点に、「全員ができる」「全員が分かる」ことを目標に「学力向上委員会」を中心に具体策を固めていく。 キャリア教育については、子供達一人一人が、生涯を見据えて、学ぶ意義や目的を見出し、充実した人生を送る基盤を形成するために重要である。今年度から始まったキャリアノートの活用をさらに充実させ、子供達のキャリアプランニング能力の育成に努める。
	指標	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善に進めている。			
	項目	指導と評価の一体化を図っているか。	教職員アンケート【3.95】	A	
	指標	PDCAサイクルを重視した授業改善を図っている。			
	項目	キャリアプランニング能力の育成に努めているか。	教職員アンケート【4.00】	A	
指標	学ぶことや働くことの意義を理解する授業や、生き方を主体的に判断する授業を行っている。				
②「生きる力」を育む魅力ある学校づくりの推進	項目	年間を通して、環境整備を意図的・計画的に行っているか。	教職員アンケート【3.63】	A	「特色ある学校づくり」が課題の一つである。コロナ禍により、外部講師の招聘が困難になり、各種行事の開催も中断されている状況であるが、今一度、赤穂小学校区の特性を見直し、「子どもたちへ何を伝えるべきなのか。」という視点で、教育内容の再考を図りたい。 児童の健康・安全な生活環境づくりに向けて、「通学路の安全状況」「学校内の安全点検」「災害時の安全確保」等について、引き続き、改善に向けた取組を進めていく。
	指標	当番活動、係活動等を充実し、過ごしやすい教室の雰囲気作りを行っている。			
	項目	実効ある危機対応マニュアルを策定し、危機管理体制が構築されているか。	教職員アンケート【3.68】	A	
	指標	自治体及び関係諸団体と連携し、各学校園で作成している安全三領域(生活、災害、交通)に対応した研修や訓練を実施し、必要に応じて改善を図ることに努めている。			
	項目	特色ある教育活動の推進に努めているか。	教職員アンケート【3.42】	B	
指標	特別クラブ・防災学習・地域学習(町探検・加里屋川・赤穂義士等)について、充実した活動を行っている。				
③生徒指導	項目	一人一人の内面理解に努め、人間的なふれあいを基盤とした生徒指導を推進しているか。	教職員アンケート【3.16】	B	今年度、重大ないじめの案件は認められていないが、「いじめは絶対に許してはいけないが、必ず起きるものだ。」という積極的認知の姿勢のもと、未然防止・早期発見・早期対応に努めていることによると考えられる。特に、今年度は適切に「生活アンケート」を実施し、些細なことでも気になることがあれば、すぐに児童から話を聞いたり、「いじめ防止対策委員会」を開催している。次年度も児童一人ひとりを大切にしている指導を進めていく。
	指標	毎日、学級にいる全ての児童に声をかけ、コミュニケーションをとっている。			
	項目	好ましい人間関係づくり、児童の心の居場所づくりに努めているか。	教職員アンケート【3.58】	A	
	指標	生活アンケートを活用し、学級で起こる諸問題を解決している。			
④人権教育	項目	教育活動全体を通じ命や人権を大切にすることを育てているか。	教職員アンケート【3.63】	A	教師自身が今日的な人権課題(ネットによるいじめ、LGBT等)を感じる大切である。その上で、「教室における指導」「全校的な取組」の必要性を整理していく。具体的には、パソコンやスマホの正しい利用に向けた「情報モラル教育」の充実を図り、ネット空間における「人との関わり方」に指導の目を向けていく。
	指標	児童は自他の命を大切に、お互いを思いやる心が育っている。			
	項目	いじめ、インターネットによる人権侵害等、今日的な人権課題に対する理解の促進を図っている。	教職員アンケート【3.21】	B	
	指標	新たな課題に対応した人権教育資料を効果的に活用し、研修を行っている。			
⑤道徳教育	項目	全教育活動の中で、道徳性の育成に努めているか。	教職員アンケート【3.53】	A	赤穂小学校では、道徳科の年間指導計画をもとに、計画的・横断的(他教科との連携)に指導を進めている。次年度も、道徳の時間を中心にして、学校生活全般において、道徳教育の推進に努めていく。
	指標	道徳科の授業を要の時間として、他教科や生活面でも児童の内面の理解に努めている。			
	項目	道徳の授業時数を確保し、指導法の工夫や研究に努めているか。	教職員アンケート【3.37】	B	
	指標	週一時間の授業時間を確保し、カリキュラム通りに実践的な授業を実施している。			

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切ではない ×:適切ではない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
◎	◎	「できない」を「できる」へ、「分からない」が「分かった」になるような授業実践を今後も引き続き進めていただきたい。アンケート結果を見る限り十分な取り組みであることがわかるが、若干名「授業がわからない」と回答している児童や保護者がいることを忘れることなく、「全員ができる」「全員が分かる」を目指していただきたい。 また、キャリア教育についても新たな社会の担い手を育成するという観点で児童一人一人が学ぶ意義や目的を見出していけるよう指導に当たっていただきたい。
◎	◎	「特色ある学校づくり」が課題だとあるが、コロナ禍の中、各種行事や外部講師による特別授業等、進めていくことが困難であったと思う。ICT機器等を活用するなどして、工夫しながら教育活動を進めていっていただきたい。また、今年度見直しを進めた通学路についても、危険が回避されたわけではないので、引き続き交通安全指導を含め取り組んでいただきたい。
○	○	「いじめは絶対に許してはいけないが、必ず起きるものだ。」という意識を職員で共通理解していることや、担任一人に任せず「いじめ防止対策委員会」を開いて組織で対応していることは評価できる。不登校への対応も含めて、今後も家庭や地域など関係諸機関と緊密に連携しながら組織で対応して欲しい。
○	○	「人権教育実践研究」の研究紀要を見せていただいた。指定された令和2年度から、研究推進担当を中心に学校全体で有意義な研究を行った「足跡」を見ることができた。特に「つながりタイム」は、様々な教科や場面で活用することができるシステムである。「学校に来て良かった」「あの友達にあんなこと言ってもらってよかった」と1日1つでも家に帰って帰ることができるよう、今後も継続して取組を行って欲しい。
○	○	コロナ禍ということで、授業を参観する機会がここ2年間ほとんどなかったため、道徳の授業というものがどのように行われているのか、ということがわからない。今後、感染が落ち着き、授業参観やオープンスクールが例年通り再開されるようになれば、その機会を捉えて、道徳科の授業公開を積極的に進めていただけたらと思う。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
⑥特別支援教育	項目	インクルーシブ教育システム構築に関する教職員の専門性の向上に努めているか。	教職員アンケート【3.42】	B	保護者、教師間、各校園所、関係機関との連携を積極的に進めることができています。今後は、若手教員が増えている中、「教職員の専門性のさらなる向上」「充実した連携の継続」が課題となる。特別支援教育の充実に向けて高い意識を持ち続けていく。
	指標	個別の教育支援教育や個別の指導計画を作成している。			
	項目	保護者、関係機関との連携を図っている。	教職員アンケート【3.79】	A	
	指標	配慮の必要な児童の支援として、保護者・関係諸機関と連携している。			
⑦福祉教育	項目	高齢者や障がいのある人などへの理解を深めているか。	教職員アンケート【3.32】	B	コロナ禍により2年続けて、学習の場が十分に確保できていない。「他機関とのオンライン連携」を図る等、教育を進める場の設定に工夫を要する。
	指標	体験学習など多様な学習方法を取り入れて実践している。			
⑧環境教育	項目	自然や命あるものとのふれあいを通して、自然に対する豊かな感性や命を尊ぶ心の育成に努めているか。	教職員アンケート【3.63】	A	発達段階を考慮しながら各教科指導において、環境教育の視点を盛り込み指導を継続していく。「ごみの分別」や「食育」の分野においては、家庭における指導に感謝するとともに、今後も学校・家庭が連携ながら一層の充実を目指していく。
	指標	生き物の飼育・栽培・ごみの分別・食育・環境体験学習など、環境に関わる内容を意識して指導している。			
⑨国際理解教育	項目	自国や他国の歴史・文化について理解を深めているか。	教職員アンケート【3.17】	B	国際理解教育については、「何を指導するのか」「どの場面で指導するのか」という内容的な部分と人材活用という視点でビジョンを描くことが必要である。
	指標	自国や他国の歴史・文化にふれ、ALTを交えた授業を構成している。			
⑩情報教育	項目	ICTの積極的な活用を進めているか。	教職員アンケート【3.53】	A	今後のICT教育の充実に向けて、「今年度の課題の整理」と「実践の積み重ね」を進めていく。
	指標	電子黒板やタブレット等を活用した授業づくりをしている。			
	項目	情報モラルの育成やメディア利用についての家庭でのルールづくりに努めているか。	教職員アンケート【3.68】	A	
	指標	各学年に応じたメディアリテラシー学習を学期に一度行っている。また、ネットトラブルに関する新しい情報を学年通信などで家庭に発信している。			
⑪健康教育	項目	発達段階に応じた性教育、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の充実に取り組んでいるか。	教職員アンケート【3.53】	A	「コロナ禍」および「熱中症に対する懸念」から、児童の運動量に減少傾向が見られる。「学級(授業等)でできること」「全校的にできること」「家庭でできること」を整理しながら、児童の体力向上を図りたい。
	指標	学校生活の中で子どもの行動・発言に対して適切な指導を行っている。			
	項目	運動習慣の定着を図るための指導の工夫・改善に取り組んでいるか。	教職員アンケート【3.47】	B	
	指標	朝活動で体づくり運動を継続して行い、子どもが熱中できる体育の授業づくりに取り組んでいる。			
⑫防災教育	項目	充実した防災教育が実施されているか。	教職員アンケート【3.58】	A	「11月5日」「1月17日」「3月11日」等、様々な防災関連の日を捉えて、全校的に発達段階に応じた「防災教育」を進めることができています。今後は、近未来に起こり得る「南海トラフ地震」を重点的に「命を守る意識」の高揚を図りたい。
	指標	防災教育読本「明日を生きる」等の活用を行い、各教科や体験活動等を通して、災害から自らの生命を守るために主体的に行動する力を育成している。			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
○	○	特別支援コーディネーターを中心に、幼稚園や各関係諸機関との連携をとりながら、組織的に対応していただいている。しかし、インクルーシブ教育を推進していくためには、教職員だけでなく、地域住民や保護者の特別支援教育に関する理解が必要である。学校の取組を学校だよりやホームページで発信するなどして、啓発を進めていって欲しい。
△	○	手話学習をオンラインで行ったり、車いす体験を少人数で行ったりと工夫して活動ができていていると感じている。より充実した学習になるよう、活動したらそれで終わりではなく、何のためにこのような学習を行っているのか、という目的を見失わず引き続き取り組んでいって欲しい。
○	○	赤穂小学校の校区には、千種川や加里屋川、雄鷹台山などの自然素材が豊富にある。加里屋川整備事業に係るホタルの幼虫の放流はもちろん、それらの学習素材や地域人材をより積極的に活用して、自然に対する豊かな感性を育てていって欲しい。
△	△	異なる文化や価値観を理解し、国際社会の平和や発展に貢献する態度を育むために、単に知識の理解にとどめることなく、ICTを活用した体験的な学習やSDGsに関する学習の開発に努めていって欲しい。
◎	◎	ニュース等で、スマホやSNSを介して起こるトラブルが急増していると聞いている。今年度から本格的に一人一台端末の活用も始まったので、これまで以上に、情報モラルや情報リテラシーが育まれるような取組を期待している。また、児童だけでなく保護者や地域の方にも、ネットの危険性についての理解を深められるような研修の機会も引き続き設けていって欲しい。
○	○	コロナ禍で、呼吸が激しくなるような運動や、接触を伴う運動などが制限されている中ではあるが、遊びを通して運動やスポーツへの興味・関心を高め、運動習慣の定着につなげる等、毎日、自ら体を動かす楽しさや心地よさを実感できるような取組の工夫を期待している。
◎	◎	防災関連の日や、自治体の防災訓練等に合わせて、計画的に防災教育を進めることができています。引き続き防災・減災への意識高揚を図るとともに、災害による心的ストレス及びその対処についての理解を深められるような取組も行っていって欲しい。

(A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点 (実践の柱)	評価項目(学校・教師の取組)		評価資料等	達成状況	改善の方策
	評価指標及び目標値(期待される姿)				
⑬家庭と地域との連携	項目	家庭や地域への情報発信を十分に行っているか。	教職員アンケート【3.11】	B	年間を通して、「授業参観」「オープンスクール」「運動会」「音楽会」等、保護者や地域の皆様を招く行事が実施できていない。そのために、「今、学校で何をしているのか？」という情報発信が不十分であった。次年度は、学校HPや学校だより等を通じて、より一層の情報発信をしていきたい。
	指標	学年便りや各種お知らせ文書を分かりやすく丁寧に作成している。			
	項目	地域人材や地域教材の活用に努めている。	教職員アンケート【3.57】	A	
	指標	外部講師や保護者・地域人材を活用した学習活動に積極的に取り組んでいる。			
	項目	家庭や地域との連携・協力は図られている。	教職員アンケート【3.58】	A	
	指標	連絡帳や電話等を活用して、保護者と密に、また日常的に連絡を取り合うことができる。			
⑭資質・指導力の向上、研修の充実	項目	教育公務員としての使命感・倫理観の自覚ができている。	教職員アンケート【3.59】	A	教育公務員の不祥事が多数報じられている。まず、管理職が、このような事案を正確に職員へ伝え、教育公務員として高い倫理観を持ちつづけていく指導が必要である。「教員としてあるべき姿」「教員としての資質向上」は、学校管理者の広い視野とリーダーシップが必要である。
	指標	服務規律を点検し、心ふれあう職場づくりに努めている。			
	項目	専門職としての力量をみがく、主体的な研修と実践が行われている。	教職員アンケート【3.60】	A	
	指標	自主的に研修会に参加したり教育書を読んだりする等、指導力の向上に向けて取り組んでいる。			

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と次年度具体的改善方法
△	○	教職員の自己評価は低いですが、時代やライフスタイルに沿った柔軟な情報発信ができていないのではないかと感じている。中でも学校HPの充実度は、他の学校よりも高い。「学校ガイド」や「警報になったら」等、紙で配付しているだけでなくHPにも載っていたら、保護者はいつでも確認することができるので安心である。今後も、YouTubeチャンネルなど、より効果的な発信で、且つ負担感の少ない持続可能な方法を開発し、情報発信していただきたいと思います。
○	◎	経験の浅い教職員が増える中、また、コロナ禍で様々な活動に制限がかかる中ではあるが、いつも職員室から活気と和やかな空気を感じている。これは、職員同士が互いに認め合いながら、チームとして様々な問題に対応しているからだと感じている。一方で、教師の負担感・多忙感は増している。教職員の負担感を減らし、働きがいをもって日々の業務に当たることができるよう、管理職にはこれまで以上のリーダーシップを発揮するよう期待している。

【自己評価における特記事項】

※達成状況の評価は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。
A:達成した…4ポイント B:ほぼ達成した…3ポイント C:あまり達成できなかった…2ポイント D:達成できなかった…1ポイント
※職務内容が異なることから、評価項目全て当てはまるとは限らない。また、最終的に「児童アンケート」「保護者アンケート」を考慮した上で、達成状況の評価を決定している。
※達成状況で、評定点数が「3.5以上」をA、「2.8以上3.5未満」をB、「2.8未満」をCとしている。

【項目以外の点で次年度の課題や具体的改善方法】

○理数教育の充実
→魅力ある授業となるよう、問題解決の力を養う観察・実験、ものづくり等の体験的な学習活動(理科)や、数・式・図式等を用いた探求活動(算数)等の充実を図る。